

## I 浄土真宗のすくい②

本願寺派布教使・行信教校講師 中西昌弘先生



世間では、よく仏さまがあるかないか、お浄土が存在するかしらないか、まことしやかにおっしゃる方がありますがけれども、あんな考え方に惑わされる必要は少しもありません。

なぜかという、私が仏さまにならせていただいたら、仏があるかないかではない状態です。そういうところに腹を据えて、この浄土真宗のみ教えをしっかりとお聴聞させていただくということが大事なことなのです。

人間というのは、生まれながらにして不安や心配を抱えております。物心ついた頃から、心配や不安にさいなまれながら生きていく。これが人間の地金じかねですね。その人間の苦悩というものを解決する。それが阿弥陀さまという仏さまだったのです。

実は私たちを救おうとして立ち上がってくださったのは、何も阿弥陀さまだけではございません。『仏説阿弥陀経』というお経をあげてなさいました。阿弥陀経の中にもたくさんの仏さまのお名前が次から次へと登場してまいります。あの仏さまのお名前というのは、命の個性を表したお名前かなというふうに私最近思うのです。

仏さまというのは、お悟りの世界は1つなのですけれども、個性というのは無くならないのではないかなと思うのですよね。いろんな仏さま方が私たちを救おうとして立ち上がってくださったのだけれども、どの仏さまも私たちを救い切ることができず、途中でさじを投げて去って行かれたというふうに、『御文章』ごぶんしょうという蓮如上人れんにょしょうにんが書き記していただきましたお言葉の中におっしゃっております。

ということは、我々は阿弥陀さまという仏さま以外の仏さまからは見捨てられたような、見放されたような命のあり方をおったということです。なぜかという、それほどまでに私たちは深い罪や障りをお互い抱えておったということでもあります。

しかし、阿弥陀さまという仏さまだけは、どの仏さまも手に負えないような命のあり方をしている私であっても、阿弥陀さまは必ず救い遂げるといふ思召しを持って、私の命に接してくださいました。

そしてこの命を救わんがために、五劫ごごうという長い長い長い時間をかけて、考えて考えて考え抜いてくださいました。五劫というのは、「劫」が「カルパ」というインドの言葉です。どんな長い時間かと言えば、いろんな譬えたとがあるのですが、40里四方の大きな岩を想像しなさいというのです。漠然としてわかりにくいので、富士山の40倍の岩を想像してみましようか。

そこに100年に1回あるいは4年に1回という説もありますが、天上界、神々の世界から天女が舞い降りて来て、身につけている衣でその岩を1回スーッとなぞっていきます。すると、いかに40里四方の岩といえども、やがて擦り切れていきます。その擦り切れた状況を1劫というのです。

2021年5月1日「正宣寺永代経法要」より